

2016年4月15日

「神戸製鋼所健康保険組合における胃がんリスク検診 導入と運用について」

神戸製鋼所健康保険組合・社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院 健診センター
○神鋼記念病院 健診センター事務長 木村 秀和

神戸製鋼所健康保険組合では、「胃がんリスク検診（ABC検診）」と内視鏡検査を40歳以上全員に実施し、リスクに応じて定期的に管理する新しい胃検診を2010年度から導入し、検診精度の向上を図り国内罹患率上位の「胃がん」を早期に発見することを目的とした。ピロリ菌除菌も積極的に推奨し、将来的胃がんリスクの軽減と将来医療費の抑制を目指した。

神戸製鋼所健康保険組合では、事業主・実施医療機関と三者一体となって健診事業を実施しており、定期健診と一緒にがん検診等も就業時間内に受けることが可能である。こうした環境が整っていることもあり、従来行っていた間接X線検査による胃がん検診受診率は、毎年約8割と高かった。しかしながら、胃がん・食道がんによる死亡はほぼ毎年発生していた。

胃がん発見率を高め、胃がんによる死亡をなくしていける検診方法はないか、健保組合と事業主、健診を委託している神鋼記念病院健診センターとともに見直しを進め、内視鏡検査を軸にした検診方法を構築した。

新しい胃検診は、40歳以上全員に血液検査による胃がんリスクチェック（ABC検診）と内視鏡検査を行う。その結果により、内視鏡検査の受診サイクルを決めて管理していく。

35歳～39歳は希望者に血液検査を行い、ピロリ菌感染や萎縮性胃炎が疑われた場合に内視鏡検査を行う。血液検査のうちピロリ菌検査は1回のみで、ペプシノゲン検査は毎年行う。

リスク検診、内視鏡検査の費用は健保組合の全額負担。また、リスク検査でピロリ菌感染が判明した場合には、積極的に除菌を勧めており、除菌と除菌判定の検査にかかる費用も健保組合が負担している。「徹底した胃がん予防対策で、胃がんをゼロに近づけ、貴重な人材を守る」という健保組合の方針に基づいている。

導入後の初回内視鏡受診総数(2010年・2011年の2年間で実施)10,768人(受診率76.9%)、ピロリ菌感染者6,137人の内4,092名(66.6%)の除菌成功者、がんの発見数も2010年から2015年3月末までに、胃がん63件・食道がん14件発見され、早期治療につながり、ピロリ菌除菌効果を含めて医療費の軽減効果にもつながってきた。